

先週のポイント

特別勘定運用部
2016年3月14日号

前週末の良好な米雇用統計や、原油価格の上昇、欧州の追加緩和発表等を受けて、NYダウは今年の高値を更新。一方で、日本株は円高傾向を受けて伸び悩んだ。欧州ではECBが追加緩和を発表したものの、ドラギ総裁の記者会見で追加利下げに対する消極的な姿勢が示されたことからユーロ高が進行。商品市場では全般的に買い戻しの動きが継続、原油は前週比7%高と大幅続伸。

| | 2015年3月末 | 2月29日 | 3月4日 | 3月11日 | (年度始～) 2015年3月末比 | (前月末～) 2月29日比 | (前週末～) 3月4日比 |
|------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------------------|------------------|-----------------|
| 日経平均株価(円) | 19,206.99 | 16,026.76 | 17,014.78 | 16,938.87 | -11.8% | 5.7% | -0.4% |
| TOPIX(ポイント) | 1,543.11 | 1,297.85 | 1,375.35 | 1,359.32 | -11.9% | 4.7% | -1.2% |
| NYダウ(ドル) | 17,776.12 | 16,516.50 | 17,006.77 | 17,213.31 | -3.2% | 4.2% | 1.2% |
| S&P 500(ポイント) | 2,067.89 | 1,932.23 | 1,999.99 | 2,022.19 | -2.2% | 4.7% | 1.1% |
| ナスダック総合指数(ポイント) | 4,900.89 | 4,557.95 | 4,717.02 | 4,748.47 | -3.1% | 4.2% | 0.7% |
| ユーロストックス(ポイント) | 377.92 | 313.07 | 321.86 | 325.19 | -14.0% | 3.9% | 1.0% |
| 上海総合指数(ポイント) | 3,747.90 | 2,687.98 | 2,874.15 | 2,810.31 | -25.0% | 4.6% | -2.2% |
| 円/ドル(円) | 120.13 | 112.69 | 113.74 | 113.86 | -5.2% | 1.0% | 0.1% |
| 円/ユーロ(円) | 128.91 | 122.53 | 125.18 | 127.00 | -1.5% | 3.6% | 1.5% |
| ドル/ユーロ(ドル) | 1.0731 | 1.0873 | 1.1006 | 1.1154 | 3.9% | 2.6% | 1.3% |
| WTI 原油先物(ドル/バレル) | 47.60 | 33.75 | 35.92 | 38.50 | -19.1% | 14.1% | 7.2% |

*金利は変化幅

| | | | | | | | |
|--------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 日本10年国債(%) | 0.41 | -0.06 | -0.04 | -0.01 | -0.41 | 0.06 | 0.04 |
| 米国10年国債(%) | 1.92 | 1.73 | 1.87 | 1.98 | 0.06 | 0.25 | 0.11 |
| ドイツ10年国債(%) | 0.18 | 0.11 | 0.24 | 0.27 | 0.09 | 0.16 | 0.03 |
| イタリア10年国債(%) | 1.24 | 1.42 | 1.46 | 1.33 | 0.09 | -0.10 | -0.14 |
| スペイン10年国債(%) | 1.21 | 1.53 | 1.56 | 1.49 | 0.27 | -0.05 | -0.08 |

*市場が休日の場合は前営業日の数値を記載しています。

(出所)Bloomberg

先週の市場動向(内外株式)

国内株式 下落

・週初は、円高が重しとなり、日経平均は続落。
・注目のECB理事会では、踏み込んだ緩和策が発表されるも、ドラギ総裁発言を受け欧州株は下落、為替も急速に円高に振れ、日本株も下落で反応。
下値では買いが入り、値を戻したものの、週間では下落となった。

東証33業種別騰落率

| | | | |
|------|---|---------|-------|
| (上位) | 1 | パルプ・紙 | 2.1% |
| | 2 | 水産・農林業 | 1.1% |
| | 3 | 小売業 | 0.8% |
| | 4 | 繊維製品 | 0.8% |
| | 5 | 情報・通信業 | 0.6% |
| (下位) | 1 | 電気・ガス業 | -9.8% |
| | 2 | 保険業 | -5.5% |
| | 3 | 鉱業 | -3.8% |
| | 4 | 非鉄金属 | -3.5% |
| | 5 | 石油・石炭製品 | -2.8% |

(出所)Bloomberg

外国株式 まちまち

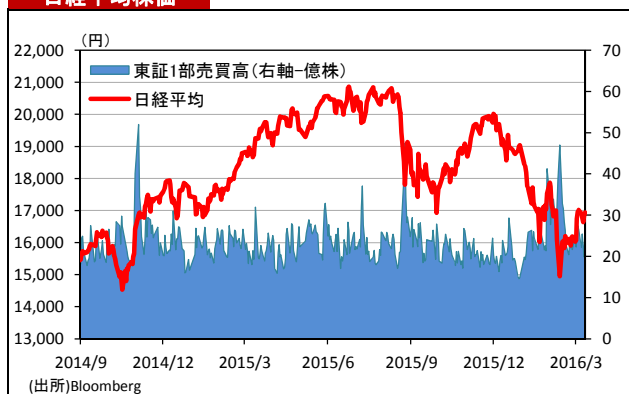
(米国)週初、利食い売りや中国貿易統計の下振れ等を受け、下落。その後、原油価格の上昇が相場を下支えした他、ECBの追加金融緩和も好感され、週間では上昇。
(中国)全人代での政府活動報告を好感するも、貿易統計の下振れや金融緩和期待の後退等を受け週間では下落。

S&P500業種別騰落率

| | | | |
|------|---|------------|------|
| (上位) | 1 | 素材 | 2.1% |
| | 2 | 公益事業 | 2.1% |
| | 3 | エネルギー | 1.9% |
| | 4 | ヘルスケア | 1.7% |
| | 5 | 電気通信サービス | 1.2% |
| (下位) | 1 | 資本財・サービス | 0.5% |
| | 2 | 一般消費財・サービス | 0.6% |
| | 3 | 生活必需品 | 0.6% |
| | 4 | 金融 | 1.0% |
| | 5 | 情報技術 | 1.1% |

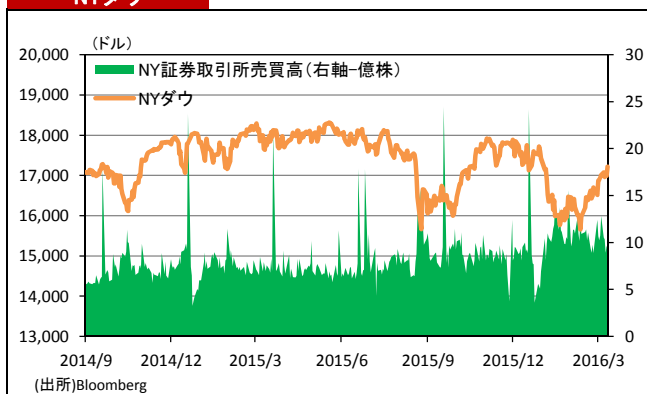
(出所)Bloomberg

日経平均株価



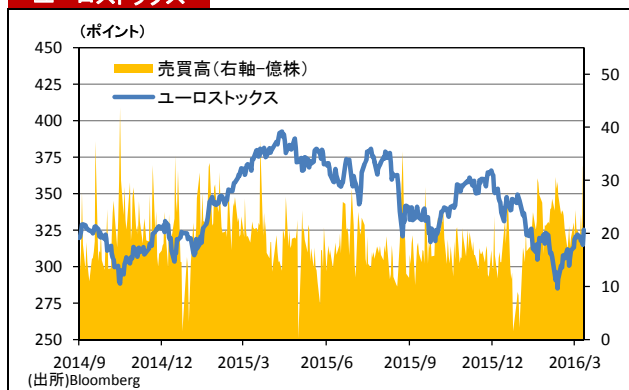
(出所)Bloomberg

NYダウ



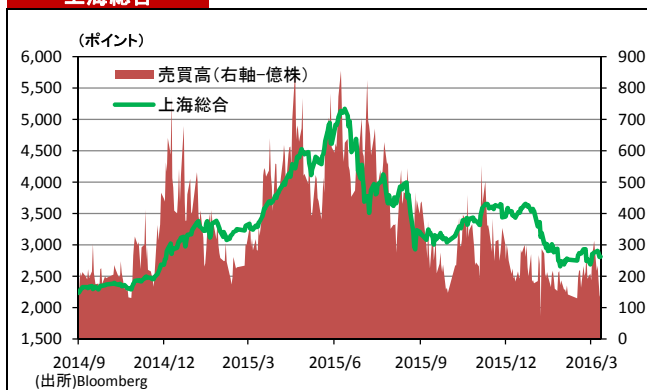
(出所)Bloomberg

ユーロストックス



(出所)Bloomberg

上海総合



(出所)Bloomberg

先週の市場動向(内外金利、為替、経済指標)

国内金利 金利上昇

週前半、30年債入札の堅調な結果を受け、一時過去最低となる▲0.1%まで金利低下した。しかし、その後は相場の行き過ぎ感から超長期ゾーンを中心に調整売りが入ったこと、日銀買入オペや5年債入札の軟調な結果を受けて金利上昇した。

米国金利 金利上昇

週前半に一時1.8%台前半まで金利低下したが、その後は米10年債入札の軟調な結果や原油価格の上昇、ドラギECB総裁の記者会見で追加利下げに対する消極的な姿勢が示されたことなどを受けて金利上昇した。

為替 ほぼ横這い

週前半は株安を背景にリスクオフ地合いとなり、一時112円台前半まで円高が進行。その後は、ECB理事会での追加緩和実施とドラギ総裁の発言を受けて上下するも、原油価格や株価の堅調推移を背景に113円台後半を中心に推移した。

| 日本 | 経済指標 | 期間 | 予測 | 実績 | 判定 |
|-----|-----------------|----|------|------|----|
| 3/1 | 日経日本PMI製造業(確定値) | 2月 | --- | 50.1 | - |
| 3/8 | 景気ウォッチャー調査(現状) | 2月 | 47.4 | 44.6 | x |
| 3/8 | 景気ウォッチャー調査(先行き) | 2月 | 49.3 | 48.2 | x |

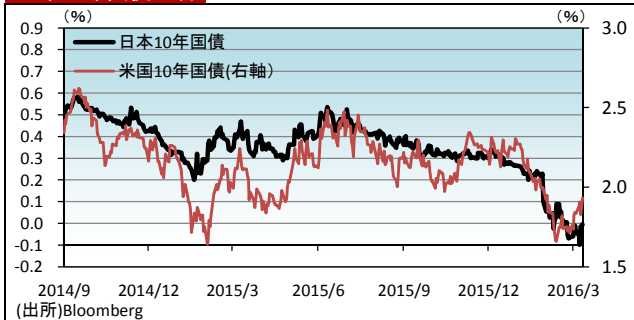
| 米国 | 経済指標 | 期間 | 予測 | 実績 | 判定 |
|------|---------------------|-------|--------|--------|----|
| 3/1 | マークイット米国製造業PMI(確定値) | 2月 | 51.2 | 51.3 | ○ |
| 3/1 | ISM製造業景況指数 | 2月 | 48.5 | 49.5 | ○ |
| 3/2 | ADP雇用統計 | 2月 | 19.0万人 | 21.4万人 | ○ |
| 3/3 | 新規失業保険申請件数 | 2月27日 | 27.0万件 | 27.8万件 | x |
| 3/3 | ISM非製造業景況指数(総合) | 2月 | 53.1 | 53.4 | ○ |
| 3/4 | 非農業部門雇用者数変化 | 2月 | 19.5万人 | 24.2万件 | ○ |
| 3/10 | 新規失業保険申請件数 | 3月5日 | 27.5万件 | 25.9万件 | ○ |

| ユーロ圏 | 経済指標 | 期間 | 予測 | 実績 | 判定 |
|------|-----------------------|----|------|-------|----|
| 2/29 | CPI予想(前年比) | 2月 | 0.0% | -0.2% | x |
| 3/1 | マークイットユーロ圏製造業PMI(確定値) | 2月 | 51.0 | 51.2 | ○ |

| 中国 | 経済指標 | 期間 | 予測 | 実績 | 判定 |
|-----|---------------------|----|----------|----------|----|
| 3/1 | Caixin中国PMI製造業(確定値) | 2月 | 48.4 | 48.0 | x |
| 3/8 | 貿易収支 | 2月 | 510.0億ドル | 325.9億ドル | x |

(出所)Bloomberg

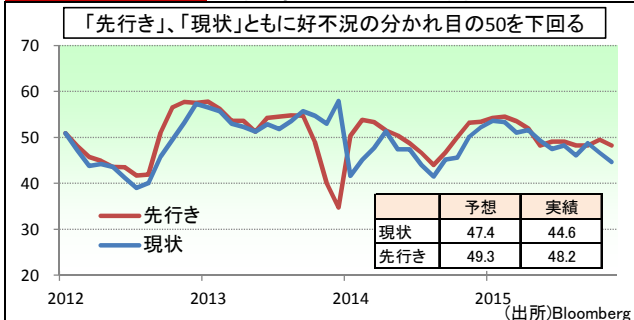
日米10年国債金利



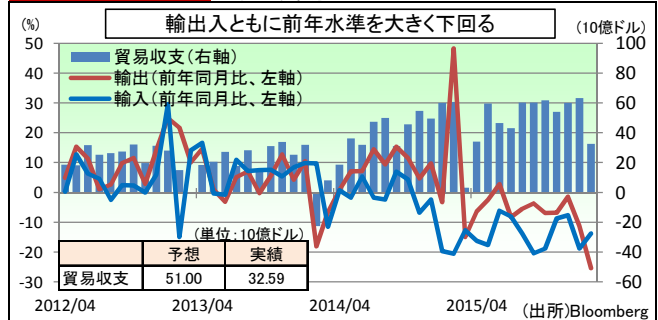
為替



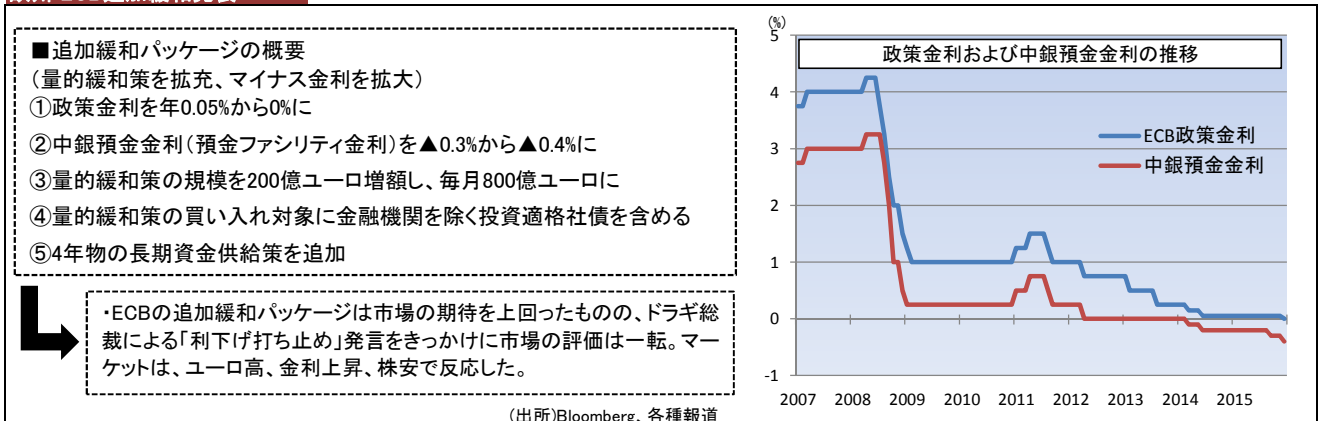
先週の経済指標1 日本 景気ウォッチャー調査



先週の経済指標2 中国 貿易収支



欧州 ECB追加緩和発表



今後の見通し

日本株は緩やかに下値を切り上げる動き、イベントでのサプライズには注意

・米国経済に対する悲観論の後退、原油、鉄鉱石、銅等の商品価格反発を受けて、資源国通貨や株式等のリスク性資産が買い戻される展開が継続している。今週は日米で金融政策に係るイベントが控えているが、サプライズが無ければ、経済指標を確認しながら過度な悲観に対する株価修正の動きが続こう。

・14-15日の日銀金融政策決定会合では政策変更はないものと見られる。結果発表後の記者会見では黒田総裁のマイナス金利に係る発言が注目されるが、これまでのトーンが大きく変化する可能性は低く、サプライズとはなり難いだろう。

・一方、米国ではFOMCが控えている(結果公表は16日)。こちらも政策変更(利上げ)はないものと見られるが、イエレン議長の会見における経済見通しや海外情勢判断、メンバーの金利見通しは市場コンセンサスと乖離する可能性が相応にあり、特にタカ派に振れた場合には市場の波乱要因となり得るので注意したい。

※ 現時点での市場見通しを示したものであり、当社の投資方針と必ずしも整合するとは限りません。

※ 本資料は当社が情報提供を目的に作成したものであり、保険募集を目的とするものではありません。

※ データの一部は当社が信用できると判断した情報源より作成しておりますが、正確性・完全性について当社が保証するものではありません。 お問い合わせ先: 特別勘定運用部

※ 最終ページのご連絡事項についてよくお読み下さい。

今週の注目イベントなど

| 日付 | 国 | イベント | 予測値 |
|------|---|--------------------|-----------|
| 3/14 | 日 | 1月 機械受注(船電除民需、前月比) | 15.0%(実績) |
| 3/14 | 日 | 日銀金融政策決定会合(～15日) | - |
| 3/15 | 米 | 2月 小売売上高(前月比) | -0.1% |
| 3/15 | 米 | FOMC(～16日) | - |
| 3/16 | 米 | 2月 住宅着工件数 | 115万戸 |
| 3/16 | 米 | 2月 鉱工業生産(前月比) | -0.3% |
| 3/17 | 欧 | EU首脳会議(～18日) | - |
| 3/18 | 米 | 3月 ミシガン大学消費者信頼感指数 | 92.2 |

(出所)Bloomberg等

第一生命保険株式会社
お問い合わせ先: 特別勘定運用部
TEL 050-3780-1007

特別勘定特約に関する重要なお知らせ

※本お知らせは保険業法第300条の2に準用される金融商品取引法第37条に基づき、特別勘定特約に関して表示すべき広告等規制に関して記載するものです。

【手数料について】

- ・特別勘定特約に関する手数料(付加保険料)は、当社が引受けるご契約者の年金資産(責任準備金)のうち特別勘定部分の経過責任準備金を各口ランクごとの金額に分け(円貨建株式口は1型・2型を通算)、それぞれに所定の手数料の率を乗じて得た金額の合計額を毎年ご負担いただきます。
- ・以下の手数料率表については、経過責任準備金ランクの上限および下限のみ記載しております。

■手数料率表

| ●確定給付企業年金保険 ●厚生年金基金保険(Ⅱ) | 総合口 | 第2 総合口 | 債券 総合口 | 円貨建 公社債 口 | 円貨建 株式口 1・2型 | 円貨建 株式口 パッシブ 型 | 外貨建 公社債 口 | 外貨建 公社債 口為替 ヘッジ型 | 外貨建 株式口 | 外貨建 株式口 パッシブ 型 | 外貨建 株式口 新興国 型 | 短期 資金口 |
|-----------------------------|--------|-----------|-----------|-----------------|--------------------|-------------------------|-----------------|---------------------------|------------|-------------------------|------------------------|-----------|
| 手数料上限 (1,000万円以下の部分) | 0.600% | 0.600% | 0.590% | 0.450% | 0.700% | 0.400% | 0.750% | 0.750% | 0.800% | 0.500% | 0.800% | 0.050% |
| 手数料下限 (500億円超の部分) | 0.220% | 0.220% | 0.210% | 0.155% | 0.230% | 0.110% | 0.230% | 0.230% | 0.240% | 0.210% | 0.240% | 0.050% |

| ●厚生年金基金保険 | 総合口 | 第2 総合口 | 債券 総合口 | 円貨建 公社債 口 | 円貨建 株式口 1・2型 | 円貨建 株式口 パッシブ 型 | 外貨建 公社債 口 | 外貨建 公社債 口為替 ヘッジ型 | 外貨建 株式口 | 外貨建 株式口 パッシブ 型 | 外貨建 株式口 新興国 型 | 短期 資金口 |
|-------------------|--------|-----------|-----------|-----------------|--------------------|-------------------------|-----------------|---------------------------|------------|-------------------------|------------------------|-----------|
| 手数料上限 (10億円以下の部分) | 0.440% | 0.440% | 0.430% | 0.330% | 0.520% | 0.400% | 0.550% | 0.550% | 0.600% | 0.500% | 0.600% | 0.050% |
| 手数料下限 (500億円超の部分) | 0.220% | 0.220% | 0.210% | 0.155% | 0.230% | 0.110% | 0.230% | 0.230% | 0.240% | 0.210% | 0.240% | 0.050% |

※手数料=各口の(経過責任準備金の各ランクに当たる金額×所定手数料率)の合計

※消費税は別途申し受けます。

※上記のほか、資産運用の過程で売買の際に発生する売買委託手数料や、売買委託手数料に関する消費税に相当する金額、先物取引・オプション取引等に要する諸費用を運用費用の一部として間接的にご負担いただきます。なお、売買委託先、売買金額等によって手数料率変動する等の理由から、これらの計算方法は表示していません。

※運用効率の観点等から投資信託による運用を行う場合、投資信託に係る信託報酬を運用費用の一部として間接的にご負担いただきます。なお、信託報酬については投資信託の運用会社や投資対象資産によって手数料率が異なる等の理由から、計算方法を表示していません。ただし、第2総合口および債券総合口における私募投資信託の手数料については、「ご契約のしおり」をご覧ください。

※上記の手数料には、一般勘定(主契約)の付加保険料、制度管理等に係る各種業務委託費、年金数理人費は含まれておりません。

【特別勘定特約 第2総合口の投資対象について】

第2総合口では、リスク分散を高度に行うために新興国国債、新興国株式、REIT(不動産投資信託証券)を投資対象とするため私募投資信託を用いて運用を行います。投資対象の詳細については、「ご契約のしおり」および別途資料にてご案内申し上げます。

【特別勘定特約 債券総合口の投資対象について】

債券総合口では、リスク分散を高度に行うために先進国国債(日本含む)、新興国国債、グローバル社債を投資対象とするため私募投資信託を用いて運用を行います。投資対象の詳細については、「ご契約のしおり」および別途資料にてご案内申し上げます。

【損失発生リスクとその発生理由】

- ・特別勘定特約は、一般勘定(主契約)の責任準備金(保険料積立金)の一部を特別勘定で運用し、この運用実績を直接、責任準備金(保険料積立金)に反映させる仕組みの商品です。
- ・特別勘定は、国内外の公社債、株式等を運用対象とするため、「株価の下落」「金利の上昇による債券価格の下落」「円高による外貨建資産価値の下落」等といった投資対象資産の価格下落リスクは責任準備金(保険料積立金)の下落要因となります。資産運用の結果は、その損失も含めてご契約者に帰属します。
- ・経済情勢や運用成果のいかんにより高い収益を期待できる反面、元本(特別勘定に投入された保険料の合計額)の保証はなく、運用実績が元本を下回ることがあり、損失を生じる可能性があります。

【ご留意事項】

- ・特別勘定における資産運用の成果がご契約者の期待どおりでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償、補填をすることはありません。
- ・特別勘定での運用にあたっては、ご契約者が特別勘定の特徴を十分理解した上で、ご契約者の判断と責任において行わなければなりません。

第一生命保険株式会社
東京都千代田区有楽町1-13-1
電話 03(3216)1211(大代表)